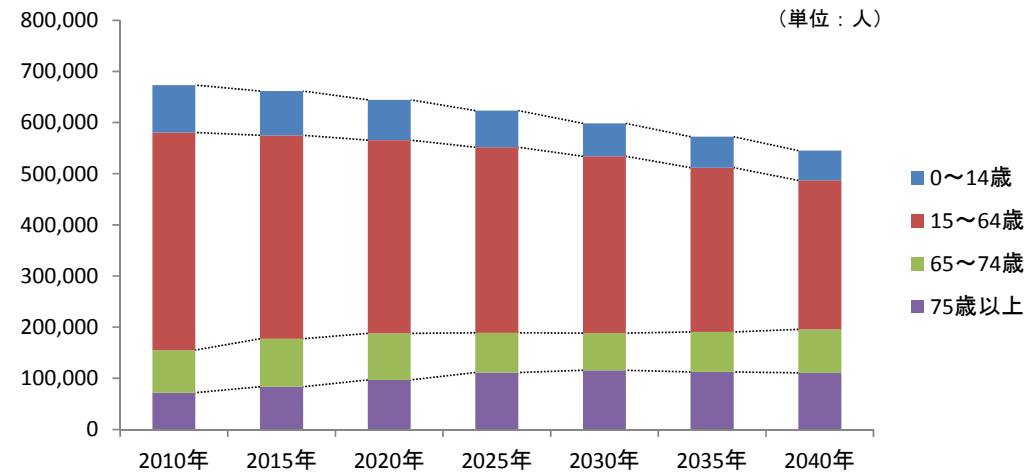


1 人口構造の変化の見通し

- ・2010年の人口は67万3千人で、西部、静岡に次いで人口が多い圏域である。2025年は7.5%減少し、2040年には19.1%減少する。
- ・65歳以上人口は、2010年には15万5千人。2025年に向けて21.6%増加し、2040年は26.2%増加する。
- ・75歳以上人口は、2010年には7万人。2025年に55.2%増加するが、2030年に向けても増加した後、減少に転ずる。



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	92,699	86,558	79,003	71,276	64,512	60,517	57,904
15～64歳	425,575	397,446	377,635	363,160	345,384	320,996	291,174
65～74歳	83,494	93,721	91,223	77,390	73,050	78,175	85,218
75歳以上	71,688	83,671	96,756	111,290	115,594	112,416	110,557
総数	673,454	661,396	644,617	623,116	598,540	572,104	544,853

2 構想区域の現状と課題

○医療提供体制・疾病構造・患者の受療動向

- ・圏域内の病院は48病院、そのうち一般・療養の病床をもつ500床以上の病院は3病院、200床以上500床未満の病院が5病院、200床未満が40病院(83.3%)と、中小の病院の割合が高い。
- ・圏域の疾病構造を人口動態統計(死亡原因)で見ると、「がん」による死亡は増加傾向にあり、平成25年の人口10万対の死亡率は、国・県に比べ高くなっており、五大がんでは、肺がんの死亡が最も多くなっている。脳卒中(脳血管疾患)、糖尿病、肝炎(肝疾患)、精神疾患(精神及び行動障害)による死亡は増加傾向、急性心筋梗塞による死亡は、減少傾向にある。
- ・県立静岡がんセンターは、高度先端医療の提供等を行う「特定機能病院」の国の認定を受けている。
- ・「がん診療連携拠点病院」に、都道府県型として県立静岡がんセンター、地域型に順天堂大学医学部附属静岡病院、また、県指定の静岡県地域がん診療連携推進病院に静岡医療センターが各々指定されている。
- ・圏域内の初期救急医療は、3か所の休日夜間救急センター及び病院・診療所における在宅当番医制が行われている。第2次救急医療は、18病院による病院群輪番制により対応をしている。「救命救急センター」は2病院があるが、富士市以東の県東部地域全体の患者を受け入れている。
- ・順天堂大学医学部附属静岡病院は、東部ドクターヘリの運航拠点となっており、賀茂、熱海伊東圏域など広域的な救急医療に寄与している。
- ・当圏域住民のほとんどが圏域内の医療機関に入院しており、圏域内での医療はほぼ完結できている。
- ・患者の流入流出については、流出患者の割合に比べて流入患者の割合が高い。
- ・在宅医療に関しては、県医師会が、在宅医療推進センターを設置し、在宅医療に取り組む医師・看

護師を対象にスキルアップ講習会の開催やICT(情報通信技術)を活用した在宅患者の医療情報を活用した在宅患者の医療情報等の共有化や連携の構築に取り組んでいる。

- ・病院、診療所の医療施設従事医師数は、県平均を上回っているが、病院勤務医師についてみると、医師が不足している状況である。看護師養成施設は、順天堂大学保健看護学部を含めて5施設あり、卒業後、就業した者の81.1%が県内に就業し、そのうちの65.9%が地元就業している。

○基幹病院までのアクセス

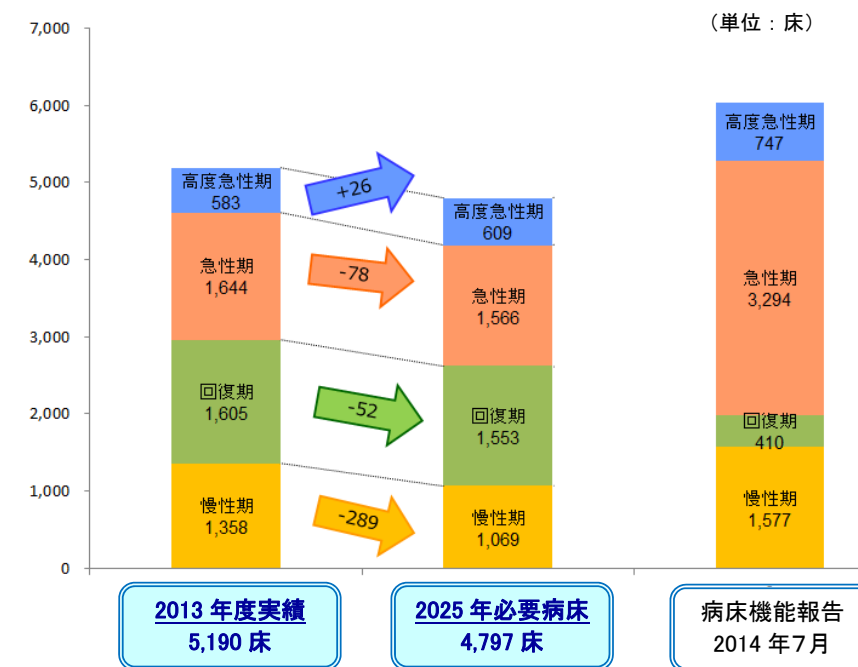
- ・圏域内の面積は、1,277.57km²と広いが、東名高速道路、伊豆縦貫自動車道、国道1号線バイパス、国道246号線バイパスが走っており、基幹病院(県立静岡がんセンター、沼津市立病院、順天堂大学医学部附属静岡病院、静岡医療センター)までのアクセスはよい。

○平成26年度以降の状況変化と今後の見込

- ・順天堂大学医学部附属病院が25床増床(平成27年3月)
- ・西島病院が6床増床(平成27年3月)
- ・三島中央病院が10病院増床(平成27年3月)
- ・沼津市立病院が74床減床(平成28年4月以降)
- ・独立行政法人国立病院機構静岡医療センターに静岡富士病院を統合予定

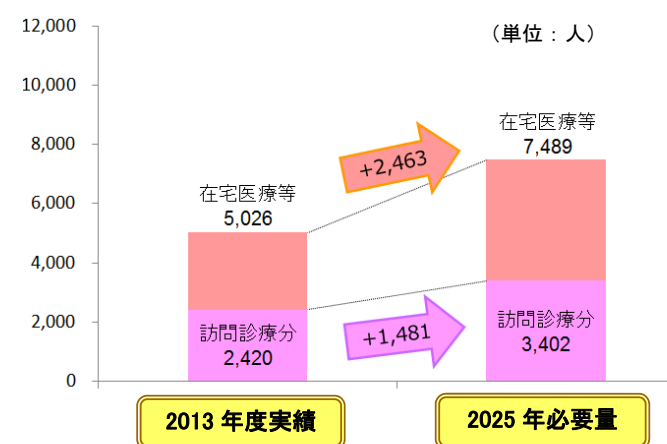
3 医療需要と2025年のあるべき医療提供体制

○2025年の必要病床数



- ・2025年の必要病床数は4,797床。2013年度実績から393床の転換等が必要になると推計される。
- ・高度急性期は26床の充実が、急性期は78床、回復期は52床慢性期は289床の転換等が必要になると推計される。
- ・2025年の必要病床数のうち、高度急性期、急性期、回復期の小計は3,728床、慢性期は1,069床。

○2025年の在宅医療等の必要量



- ・2025年に向けて、在宅医療等の医療需要の増加は2,463人、うち訪問診療分について1,481人増加すると推計される。
- ・2025年の在宅医療等必要量のうち、訪問診療分の内訳は約45%。